



成隣だより

令和3年11月30日
第8号
昭島市立成隣小学校
校長 星野 典靖

「お金の大切さ」について考える

校長 星野 典靖

年末・年始は多くの小学校で金銭のトラブルが増加する傾向があります。子供にとっては大金と思われるお金をもって遊びにでかけたり、家族や親戚の人に買ってもらった大事な物を気軽に友達にあげてしまったり、児童同士で「おごる、おごられる」といったりする事案も報告されています。

お金に関わる様々なトラブルを回避する上で小学生の時に望ましい金銭感覚を育むことが大切です。その第一歩が、「お金の大切さ」について子供にしっかりと教え、理解させることです。

1 お金は、親（保護者）が一生懸命働いてもらったものだ と教える

子供はお金があるものだと思っている気がします。しかし、実際は親（保護者）が働いた代価としてお金をもらっているのです。それを子供にしっかりと教える必要があります。

子供に何か買い与えるとき、「お金は、親（保護者）ががんばってお仕事しているから買い物ができるんだよ」と伝えてみるのも一つの方法です。また、親（保護者）の月給が30万円だとします。これを先ほどのように1円玉の重さに置き換えると、1円玉は30万枚になり、重さは300kgにもなります。これは2Lのペットボトル150本分です。子供はきっとびっくりするのではないのでしょうか。

2 お金がないとどうなるかを教える

「お金を使いすぎると買いたい物が買えなくなる」「お金がないと洋服もご飯も買えない」など、生活そのものが成り立たないことを伝えることが大切です。

3 家庭でお金について話題にして教える

スーパーなどで買い物をするときにお子さんを連れていくことも意義があります。親（保護者）が色々と考え、工夫しながら買い物をしているところを見せることも生きた学びになります。また、お手伝いをしてくれたら少ないお金をあげると、お金を稼ぐことがどういうことか体験できますし、お金を少ししかもらえないことでお金を稼ぐことの大変さを実感できると思います。

4 本当に必要な物かどうか子供自身に考えさせる

子供は何でも欲しがるとの特性があります。だからこそ、買いたい物が「本当に必要」なのか「ただ欲しいだけ」なのかについて子供自身にちゃんと考えさせることが大切です。それが本当に必要ではなく「ただ欲しいだけ」なのだとしたら、お誕生日等の特別な日に買うようにするのも一つの方法です。

5 子供に分かりやすい例えをして教える

子供に金額を示してもなかなか理解するのは難しいです。子供が実感できる例を挙げて伝えるとより理解ができると思います。

例えば、10000円を重さに置き換えてみましょう。10000円は1円玉が10000枚です。1円玉1枚は1gなので、計算すると10000円は10000g=10kgとなります。これは2Lのペットボトル5本分の重さです。

これを実際に持つてみることで、より実感を伴ってお金の価値の重さを感じ取れるのではないのでしょうか。

お金の大切さを教えることは、親（保護者）・教師など身近にいる大人の役割です。小さい時からお金の大切さをしっかりと教えてあげないと大きくなってからはなかなか治すことができません。目の前の子供が「金遣いの荒い大人」「無駄遣いが多い大人」「借金ばかりする大人」等にならないよう、小学生のうちからお金の大切さについてしっかりと教えていくことが大切です。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。